

『意欲的に取り組み、自ら追究する児童の育成』

～「話すこと・聞くこと」の指導の工夫・改善を通して～

I 研究の内容

1 研究の目標

国語科の「話すこと・聞くこと」を中心に、伝え合う力を高める言語活動を工夫することによって、子どもたちの豊かな人間性を育む。

井尻小学校がめざす「豊かな人間性」とは

- ① 自分から進んであいさつや返事ができる子ども
- ② 読書に親しむことができる子ども
- ③ 自分の思いを、豊かで正しい言葉を使って表現できる子ども
- ④ 共感をもって、他者との心のふれあいがもてる子ども

2 研究の具体的内容と方法

(1) 児童の国語科における基礎・基本の実態の把握

・5月と2月に児童アンケートを実施し、1年間の変容を読み取る。

(2) 国語科における基礎・基本についての理論研究

・「話すこと・聞くこと」のとらえ方や国語科及び「話すこと・聞くこと」の目標などを講師等を招いて研究する。

(3) 国語科における、基礎・基本の定着を図る学習指導法の研究

①指導と評価の一体化

ア 子どもたちとの目標の共有化と努力目標の設定

イ 目標の明確な授業づくり

→1授業1目標・1評価

ウ 学習の成果が実感できる自己評価、他者評価の工夫 →負担にならない

楽しいカード 自己有用感が得られる 次の活動に生きる

②指導方法の工夫

ア 児童の実態を考慮した学習課程の工夫 →目標の確認の重視

イ 児童の実態を考慮した学習カードの工夫 →個人差を考慮したもの

ウ 児童の実態を考慮した学習形態の工夫 →なるべく少人数で話し合う

エ 評価規準の具体Cと評価される子どもへの指導→個に応じた指導

(4) 研究授業による検証

・1人1実践を通して指導の工夫・改善を検証する。

(5) 学校教育全体を通しての伝え合う力の育成

①読書推進を活動する。

ア 読書指導年間計画の修正と指導の充実。

イ 朝の一斉読書や読み聞かせ、アニメーション・ブックトークの実施

ウ 環境整備・学級文庫の充実・委員会の活性化・保護者の啓蒙

②言語の力を育てる環境作りをする。

ア 廊下等への児童の作品や言葉に関する資料などの掲示。

- イ 各教室への「声のものさし」「話方表」などの掲示・活用を通して、言語環境の整備を図る。
- ウ 玄関に読書コーナーの特設。

II 成果と課題

1 研究の概要について

- ・研究主題は今日的な課題であり、本校の実態に合っていた。様々な方法で「話すこと・聞くこと」について理解し、「話すこと・聞くこと」を伸ばす指導の工夫・改善が図られた。
- ・研究組織の部会が多く、時間的な問題や研究の深まりと言う点では課題が残るが、研究の目標の達成に有効であった。

2 研究の具体的内容と方法

(1) 児童の国語科における基礎・基本の実態把握アンケート

- ・1年間の変容を読み取ることができた。特に「場面意識」や「聞く」「話し合う」の項目では顕著に「できる」・「どちらかと言えばできる」子が増えた。
- ・「できない」「どちらかと言えばできない」児童の理由を掘り下げて聞き取り、指導の改善に役立てるともっと良かった。

(2) 国語科における基礎・基本についての理論研究

- ・指導主事を招聘しての学習会や校内での学習会を通し、国語科について改めて学習できた。もう少し時間をかけて学習を深めたかった。

(3) 国語科における、基礎・基本の定着を図る学習指導法の研究

- ・「1授業1目標1評価」で、児童が目標を明確にして学習に取り組むことができた。
- ・学習カードでは、学習の成果が実感でき、また、「話すこと・聞くこと」の観点から他者評価を取り入れた学習カードができた。また、自己評価では自己有用感が得られたり、次の活動に生きるカードとすることもできた。
- ・特に「話すこと・聞くこと」では、話し合う人数や形態の工夫が大切であり、児童の実態を考慮した学習形態の工夫をしたことは、子ども達に有益であった。
- ・評価規準の具体性と評価される子どもへの指導については、具体的に個々の躓きを把握して、手立てを講じたのは良かったが、さらなる具体的な指導法の研究が大切である。

(4) 研究授業による検証

- ・2回の研究授業と1人1実践を通して指導の工夫・改善を検証した。指導主事の先生のご助言等を踏まえ「話すこと・聞くこと」への取り組みの成果と指導の難しさを感じた。

(5) 学校教育全体を通しての伝え合う力の育成

- ・朝読書、図書ボランティアの読み聞かせ、スマイルデー（全校一斉貸し出し）等様々な面からのアプローチがあって、読書活動が活性化した。
- ・言語環境の整備は豊かな言語環境作りに大きく寄与した。

III 成果物

- ・第3学年国語科指導案「すがたを変える大豆」
- ・第4学年国語科指導案「話し合って決めよう」

(研究主任 内田俊彦)